

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870201252
法人名	NPO法人 ケア・サポート
事業所名	シーサイド
所在地	愛媛県今治市吉海町臥間46-2
自己評価作成日	平成28年1月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年2月10日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

法人理念でもある「ふつうのことをふつうに」を念頭に置き、多種多様なニーズにがある中で、総合福祉施設として利用者が安心して生活できる空間作りにも努めている。また、地域の一員として、地域に根付いた施設となるよう日々努力している。その上で、人対人の関わりを大切に、利用者、職員全員が笑顔で共に過ごせるような施設を目指している。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

前回の外部評価実施後、目標達成計画にも取り上げて、地域との交流に努力している。恒例の施設合同の夏祭り時には、利用者が地域の方やご家族と楽しく過ごせるよう支援した。婦人会の民舞、地域のボランティアのフラダンス、七夕には保育園児が来てくれる。毎月一日には、利用者と職員で近隣の札所を掃除しており、お供え物したり、車椅子を使用する方もゴミ袋を広げる等、みなで協力して奉仕作業を行っている。

事業所の前には瀬戸内の海が広がり、見晴らしがよい。施設の玄関には、早咲きの桜等を生け、水仙の花が飾られているユニットもあった。全館床暖房となっている。ドアには、「トイレ」「お風呂」と大きく表示している。農園には、季節ごとに野菜を植え、利用者が水遣りや収穫を楽しめるよう支援している。

誕生会は、利用者個々の誕生日当日に開き、ホットケーキ、焼き鳥、ノンアルコール酎ハイ、ビール等ご本人の希望したものを用意してお祝いしている。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

シーサイド

(ユニット名)

げんき

記入者(管理者)

氏名

矢野 智子

評価完了日

28年 1月15日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 法人理念を共有し、理念に基づいて動いている。基本理念は全員が再確認できるよう掲示し、自らのケアを見直す努力をしている。ミーティング後にも全員で唱和し、基本理念に向かってケア出来るよう徹底している。また、普通のことを普通にと介護理念を忘れず、日々努力している。 (外部評価) 開設以来、法人理念「ふつうのことをふつうに」を事業所の理念として掲げている。毎週、職員の声を集約して、施設長が「今週の心がけ」を決めており、調査訪問日には、「互いに褒め合いましょう」と居間やエレベーター内に掲示していた。職員は、各ユニット毎の理念でもある「笑顔」「元気」を念頭において、利用者の笑顔や元気を引き出せるようなケアを目指して取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 毎月近所の札所清掃を実施している。島四国の行事では、お遍路さんのお接待を利用者の方と共に行っており、たくさんの方が施設へ立ち寄られている。また、利用者のご家族や知人を始め、定期的に婦人会、保育所、民生員の方の訪問があり、毎月様々なレクリエーションに地域の方々にお越し頂いている。 (外部評価) 前回の外部評価実施後、目標達成計画にも取り上げて、地域との交流に努力している。恒例の施設合同の夏祭り時には、利用者が地域の方やご家族と楽しく過ごせるよう支援した。婦人会の民舞、地域のボランティアのフラダンス、七夕には保育園児が来てくれる。毎月一日には、利用者職員で近隣の札所を掃除しており、お供え物をしたり、車椅子を使用する方もゴミ袋を広げる等、みなで協力して奉仕作業を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 民生委員会や、老人クラブなどには依頼があれば出向くかお越し頂き、介護保険の制度や認知症についての説明を行う旨、伝えている。その他日常での施設面会時にも認知症だけでなく、施設制度や種類等の情報を提供している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 総合福祉施設であり、同一建物内のグループホームと合同にて会議を開催している。また、利用者のご家族や行政職員、市議会議員の方等、有識者も交えて活動報告や助言、要望等の意見交換を気軽に行っている。毎回、様々な意見が活発に飛び交い、内容によっては日常のケアに取り入れている。</p> <p>(外部評価) 会議は施設内の小規模多機能事業所と合同で実施していたが、来年度からはそれぞれ単独で開催する予定である。開催日程は、参加者の都合を聞いて調整する等、出席し易いよう配慮している。会議時には、利用者や活動についての状況報告や毎月の職員会議の議題等も報告して、意見や質問、要望を出してもらっている。時には、地域の総代が持参した「高齢者虐待」「選ばれる施設になるためには」といった新聞の切り抜きを話題に取り上げて話し合うこともある。ご家族には電話で参加協力をお願いしており、会議内容は面会時に報告している。会議記録は施設の玄関に掲示している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では、市担当者、地域包括支援センター等の行政職員が参加し活動状況を報告している。行政からも人口の推移や介護保険制度の動向、その他、必要な情報提供を受けている。個別案件については、随時、電話連絡や訪問等によって対応している。</p> <p>(外部評価) 市担当者は、運営推進会議時に、適宜アドバイスしたり意見を述べたりしている。地域包括支援センターの職員から、「ヒヤリハットを運営推進会議にも取り入れると、事故防止につながるのではないかと」の助言があり、次会からヒヤリハット事例を報告する予定となっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 普段の業務の中や定期的に行っている全体ミーティング等でも議題に取り入れ、職員全員で身体拘束についての知識の共有と、拘束を行わないケアを実践している。</p> <p>(外部評価) 事業所は6階建て施設の2・3階に位置しており、各ユニットの入り口ともなるエレベーターのドアは施錠して、職員がその都度開錠して使用している。管理者は、心理的な拘束につながるような言葉遣いについては、常日頃から気をつけるよう職員に注意を促している。今後も、安全と自由の両面から環境や支援を点検して、取り組みに工夫を重ねてほしい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  定期的な全体ミーティングでも虐待についての具体的内容や事例を交えて学ぶ機会を設け、施設長をはじめ職員全体で虐待防止についての意識を統一している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  成年後見人制度については、入所前や入所時の段階で必要に応じてご家族に説明している。その上で、金銭その他の管理能力が不十分な方に対しては後見人がつく等し対応している。施設内にもパンフレットを常備している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  初回契約時に契約書や重要事項説明書、料金表等を提示し詳細を説明の上、同意を頂いている。介護保険の改定や料金変更等がある場合には文書での説明を行い、口頭でも十分納得頂けるようお伝えしご理解頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  事務所前にはご意見箱を設置している。また、契約時にも苦情対応の説明や連絡先を書面にてお伝えし同意を得ている。苦情や要望等には迅速に対応し、改善及び説明を行っている。また、日常での面会時においても気軽にご意見を頂けるよう、施設側からも気づいた事等がないか確認している。定期的に開催している運営推進会議や家族会でも貴重なご意見を頂いている。  (外部評価)  ご家族の来訪時や電話、毎月の「シーサイド新聞」等で利用者の暮らしぶり等を伝えて、意見や要望を聞いている。新聞は併設小規模多機能事業所との合作であったが、次号からは単独で作成する予定になっている。家族会は、施設合同でクリスマス会と併せて開催しており、ご家族から「居室の清掃がやや気になる」との意見があり、さらに徹底するよう取り組んだ。去年の家族会には1家族が出席し、毎回出席は少な目である。	管理者は、今後さらに、ご家族とのコミュニケーションを大切に、つながりを深めていきたいと話していた。ご家族とゆっくり話し合う機会を作ったり、一緒に勉強や活動するような機会を作ってつながりを深めてはどうだろうか。日常の外出の様子等、ご家族の知りたい情報を報告できるような取り組みについても工夫してほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>月一回の全体ミーティングでも運営や日々の業務における意見や改善点を気軽に発言できる環境を設けている。また、施設長においても日常業務の中で、職員一人ひとりの意見を確認し、可能な要望等にはその場で対応している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>自己評価は、職員の意見を聞きながら管理者が作成した。管理者は、「接遇や声かけがおろそかになりがちになっており、利用者に対する接し方や利用者の生活支援について、改めて見直すことができた」と話していた。チームケアの向上のために、職員間で「挨拶を心がける」「思いを言葉で伝える」に取り組んでいる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>代表者及び役員は日常での意見交換や社員総会等において、各事業所の内情の把握に努めている。その上で人事考課に反映させ、昇進や手当などを付与し、やる気の向上や環境整備に努めている。また、必要に応じて介護機器の導入し安全の確保や負担軽減に努めている。その他、研修の斡旋等を行い、スキルアップに繋がるよう配慮している。</p>	
13		○職員を育てる仕組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>研修案内等を提示し、業務に支障なく参加できるようシフトの調整を行っている。またやる気や適性がある方は資格の有無に関係なく採用し、初任者研修等取得に向けた勤務体制を確保している。施設長においても、職員個々の性格や力量を見極めながらの指導を行い、力が伸ばしていけるような環境に配慮している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>法人内に複数事業所があり関連施設も点在している。その上で法人全体の研修機会を設けている。また、協力関係にある事業所職員の研修受け入れや相談できる機会を設けている。ミーティング等においても積極的に他事業所との交流や意見交換が図れている。</p>	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>事前調査の段階では介護支援専門員や管理者等が対応し、ご本人との信頼関係を構築の上、これまでの生活や心身状況等の情報を収集している。また、施設長をはじめ、各管理者においても初期段階での説明や関わりを重要視しており、契約時も時間をかけて不安感が軽減できるよう努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの利用開始時には、ご家族の意見や意向を確認し、介護支援専門員等が分かりやすい説明に努めている。また、これまでの支援や関わりを尊重した上で、施設でできる事やできない事、ご協力が必要な部分についてもしっかりと説明し信頼関係の構築を図っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用相談時、本人、家族を交えての面接により情報収集し、フォーマル及び、インフォーマルなサービスを含めて対応している。その上で介護方法や、医療的な関わり、福祉用具の活用等についても十分説明し必要な支援を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者本意での関わりが持てるように職員間で意識し、人生の先輩として介護させて頂くという気持ちを大切にしている。その上でできる事、できない事についてもしっかりと説明し納得頂けるよう努めている。また、長年の経験や知識等を教えて頂き、共に成長できるような関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方が気軽に意見や相談して頂けるよう、日頃から面会時や電話等にてコミュニケーションを図っている。また、体調の変化や制度の改正等がある場合も迅速に連絡し、不安感や不信感を抱く事のないよう努めている。その上で、施設の機能上、できる部分、できない部分がある事もお伝えし、ご協力無くしては成り立たない事を初期段階で説明しご理解頂けるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 島嶼部の施設でもあり、地域住民の方との関係性や関わりも多く見られており、ご家族をはじめ知人の方等が面会に来られる事も多い。また、地域の商店へお連れしたりや医療機関受診の支援もさせて頂いている。 (外部評価) ほとんどの利用者は地元の方であり、友人や趣味の仲間、教え子等の来訪時には、居室でゆっくりと過ごせるよう配慮している。ご家族と旅行したり、法事に参加したりできるよう支援している。ご本人の希望に沿って、自宅までお連れすることもある。ご家族から誕生日プレゼントが届いた場合には、折り返し電話できるよう支援している。建物内の他施設を利用する知人と行き来できるよう支援している。又、施設内で毎月、「笑いの日」を決めており、事業所が担当する際には、利用者と職員が仮装して、各施設を回り一緒に歌う等して交流している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関わりも多く見られている。中には消極的な方もおられたり、気の合う方、そうでない方もおられるが、その場合には職員が間に入る等して環境作りに努めている。また、利用者間のトラブル等もないように見守り等を行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院及び退去時にも、必要に応じてグループ内の他事業者の紹介や、その他のサービス等についての情報提供を行っている。また、利用終了後の相談も気軽に受けており、状況が整えば再度利用して頂く事も可能である。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 事前調査時及び利用開始後も定期的にアセスメントや評価を実施し、心身状態やご本人の意向確認に努めている。また、認知症等にて把握が困難な場合にも、普段の状況から適切な支援を判断したり、ご家族にも確認しながら適切な支援が行えるようにしている。 (外部評価) 施設長は「利用者の状態を細やかに観察できる目を持つ」ことの大切さを、折りにふれ職員に喚起している。「個別調査票」で、生活歴やこれまでの生活習慣、趣味等を把握しており、1年に1度は見直している。職員は、利用者との日常の関わりや、入浴、散歩等のリラックスしている時間に、さりげなくご本人の意向や思いを探るようにしている。	今後さらに、利用者一人ひとりが主体の暮らしを続けられるように、利用者の思いや、暮らし方の希望、意向について把握する取り組みに工夫を重ねてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用開始時にはご本人、ご家族を交え、これまでの生活歴や歩んできた人生等の情報収集、把握に努めている。また、以前に何らかのサービスを利用していた場合には、関係機関からの情報収集を行い、職員全体での把握や統一したケアを実践している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) これまでのご自宅及び、施設等での日々の暮らし方や習慣を確認し、入所後も随時心身状態の変化や持てる能力について確認、把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 最低でも半年に一度は、介護支援専門員及び職員とご家族も交え担当者会議を開催している。ご家族の参加が困難な場合は電話や後日面会時に意向等を確認している。また、それ以外でも日常での状況やご本人の変化に合わせて。随時サービス計画書の見直しや評価を行っている。</p> <p>(外部評価) 3ヶ月に1度、職員全員でモニタリングを行い、6ヶ月ごとに介護計画を見直している。今後さらに、利用者一人ひとりがいきいきとした暮らしが続けられるように、介護計画に工夫を重ねてほしい。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個人記録は誰が閲覧しても状況が分かるような記載に努め、事実を記入するよう職員間で努めている。また、その情報をもとに、その時々合った柔軟なケアが提供できるよう取り組み、サービス計画書等にも反映している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ご本人やご家族の希望等を確認し、外出や外泊を行って頂いている。また、状況に応じて外出や専門医療機関の付き添い等も行っており、可能な限り要望等には対応している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 老人会の慰問や各ボランティア等、地域の方が行っている私的な活動を利用する事により、より身近な部分での交流が図れ、日々の生活を楽しくして頂けるよう配慮している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 事前調査時にはご本人及びご家族に、主治医について確認している。当事業所についても協力医療機関があるが、ご希望があればこれまでのかかりつけ医を継続して受診して頂ける。その場合には受診の付き添いや急変時の対応等、ご家族にもご協力を得ながら連携するようにしている。</p> <p>(外部評価) 現在は、ほぼ全員のかかりつけ医が協力医療機関となっており、月に1~2度、職員が同行して受診できるよう支援している。訪問歯科を利用している方もある。「介護職員より看護師へ連絡する事項」を取り決めており、利用者の健康管理を行っている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 日頃から看護職員と密に連携し、情報伝達や共有を図っている。また、日常での体調や病状の変化等を早めに看護職にも伝達し、適切な処置や医療機関の受診が行えるようにしている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 日頃から協力医療機関との連携はこまめに行っている。また、入院中の状態についても随時確認しながら退院日等の調整を行っている。協力医療機関外も同様に必要に応じて連絡、調整を行っている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用開始段階でご本人、ご家族と終末期についての方針等を話し合い、書面での説明及び同意を得ている。その上で希望があれば、できるだけ施設にて対応させて頂くようにしているが、現状ではご家族の希望や医療的管理の側面から、重度化した場合には医療機関での対応となる事がほとんどである。</p> <p>(外部評価) 今のところは「最期は病院で」と希望するご家族がほとんどのようだ。これまでに、事業所で看取り支援した事例はないが、病院と連携しながら、痛みの緩和等して、できる限り看た事例がある。協力医療機関とは、24時間の連絡体制を確保している。今後、利用者やご家族から看取り支援の希望があれば、事業所でも支援できるような体制を作ってはどうか。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生時のマニュアルを作成し職員間で内容の把握に努めている。また、定期的なミーティングにおいても救急時の対応等について学ぶ機会を設け、職員間で知識や対応方法等の周知に努めている。医療機関とも迅速な連携がとれる体制を確保している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 最低でも年に二回は地域の消防団の方にお越し頂き、消防避難訓練を実施している。毎回、日中や夜間帯を想定した避難誘導や、消防署への火災通報も行っている。また、自動通報装置や各種機器の取り扱いも業者より説明を受けている。その他、災害時のマニュアルや避難経路等についても書面で作成している。必要最低限の備蓄(米、水等)も常備している。	
			(外部評価) 年2回の避難訓練時には、担架を使用したり水消火器を使う等の訓練も実施している。事業所の建物は、耐震性のある造りになっているため、地震津波発生時は6階に避難するようになっており、非常時に備え、5~6日分の食糧を備蓄している。さらに、運営推進会議を活かして、地域との協力体制について話し合ってはどうか。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人情報取り扱いのマニュアルを作成し職員間で周知している。日常での関わりにも配慮し、言葉かけ等についても職員間で話し合い、何気ない関わりで気分を害する事のないよう努めている。その他、自尊心や羞恥心についても侵害することのないよう留意している。	
			(外部評価) 誕生会は、利用者個々の誕生日当日に開き、ホットケーキ、焼き鳥、ノンアルコール酎ハイ、ビール等ご本人の希望したものを用意してお祝いしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) お一人おひとりと向き合い、その時々において意見や意向を確認するようにしている。認知症がある方についても、表情や行動で気持ちを推察し、必要に応じてご家族より情報収集する等している。誕生日でも何がしたいか、食べたいか等を確認し、できる範囲で希望が実現できるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 施設での集団生活でのルール等のご理解して頂きながらも、起床や就寝時間、入浴等について可能な限りお一人おひとりのペースや希望に合わせるようにしている。レクリエーション活動においても、できる部分や苦手な部分を確認し、可能な範囲で活動に取り組んで頂けるよう配慮している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご本人とも相談しながら、季節に合った衣類や意向等を確認し、必要に応じて更衣介助している。また、理美容等についても、希望すれば外部委託業者により施設へ訪問しサービスが提供できるようにしている。ご家族にもご協力頂きながら、必要に応じて衣類や化粧品をお持ち頂くようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事前の台拭きや準備等も無理のない程度でお手伝いして頂いている。おやつレクリエーションでも食べたい物を事前に確認し、見守りや安全確保のもと包丁を使用して頂いたり、材料を混ぜて頂いたり、楽しみを持ち取り組めるよう配慮している。また、定期的な行事食では板前経験のある方にお越し頂き、お造りや天ぷら等をお出ししている。利用者の方も大変喜ばれている。	
			(外部評価) 厨房で調理した食事が届き、職員が盛り付けをしている。ご飯はユニット毎に炊いており、朝食は、厨房から届いた食材で職員が調理している。食事中はテレビを消して、静かな雰囲気の中で、職員1名は、利用者とテーブルを囲み、同じ物を食べながら介助していた。事業所の農園で獲れた野菜が食卓に上ることもある。月に1~2回「おやつレクリエーション」の日を設けており、お好み焼き等、利用者と一緒に作って食べる機会がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士作成の献立のもと、栄養バランスに配慮した食事をお出ししている。また、食事や水分量もチェックし、必要に応じて間食を用意したり、食事形態を変更しトロミ剤等を用いている。安全に配慮した上で適正量が摂取できるよう努めている。水分等についても食事の時間だけでなく、ご本人に確認しながら飲みたい物をこまめに摂取して頂いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、ご本人の状態に合わせて口腔ケアを実施している。できるだけ自力にて行って頂くようにしているが、清潔面を考慮し、うがいや歯磨きの介助及び物品や義歯の片づけ、保管を介助している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 排泄チェック表を用いて一人ひとりの排泄パターンや頻度の確認、把握に努めている。また、行動等からも尿意、便意を読み取り、できるだけトイレでの排泄や先取りケアができるようにしている。立位困難な方に対しても二人介助で対応したり、日中だけでもトイレへお連れするようにしている。</p> <p>(外部評価) 居室にポータブルトイレを置かず、夜間もトイレで排泄できるよう支援している。利用者個々の排泄パターンを把握し、日中はトイレで排泄できるよう支援している。スムーズな排便を促せるよう、腹部を温めたりマッサージを試みたり、又、おむつのサイズ等にも気を付けている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 食事量や水分量の確認と併せ、適切な運動量が確保できているか、また、何らかの疾病が原因で便秘になっていないか等も確認している。その上で改善が見られない場合は医療機関とも連携し、必要であれば最小限の緩下剤等の使用を検討している。施設においても必要に応じて家庭用の浣腸液を用いる等して便秘に対応している。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 個別浴にて、最低週2回以上の入浴ができるようにしている。時間帯もできるだけ希望に沿った形にし、浴室内での移動や洗身介助、入浴前後の体調確認や水分補給等にも十分注意している。また、体調等により浴槽に入れなくても清拭等にて対応している。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望の時間帯に合わせて入浴できるように対応しており、湯船にゆっくり浸かってリラックスできるよう支援している。施設1階に設置している特浴で支援する場合もある。利用者の希望に沿って入浴剤を入れたり、ご家族が提供してくれたレモンやゆずを浴槽に浮かべて楽しむこともある。入浴剤は、買い物に出かけた際に利用者を選んでいく。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) ご本人の好まれる活動やできる事に取り組んで頂き、日中の活動量を確保し夜間の安眠に繋げている。また、不眠にて倦怠感が見られる場合には、夜間帯への影響を考慮した上で、②中でも短時間の仮眠をとって頂く等配慮している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 内服薬の情報や用法等については、一か所に集めて全職員が把握する事で、適切な服用や誤飲を防止している。また、必要に応じて服薬介助を行い、内服確認も適切に行っている。錠剤や散剤等の形状変更及び、受診時には効果等も医師に伝え、継続や変更の指示を受けている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々のレク活動や屋外散歩の他、ご本人やご家族に趣味ややりたい事などを確認している。年齢と共にできなくなった事についても、その事に関連付けた話を教えて頂いたり、別の活動へ取り組んで頂く等対応している。また、食事前後の台拭きや洗濯物をたたんで頂いたり、できる部分で役割が持てるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎回来調を確認し、天気の良い日には屋外散歩へお連れしている。また、日常での買い物やドライブ、行事での外出レクリエーションも行っており、定期的に戸外へお連れしている。誕生日等に希望があれば、ご家族とも連携し、お墓参りや行きたい場所へお連れするようにしている。 (外部評価) 近隣の札所のお参りや、海浴いの散歩、又、月2回「買い物レクリエーション」の日を設けて出かけている。ほしいものがあれば近所の道の駅まで歩いて行き、買い物できるよう支援している。季節ごとに花見を計画しており、近々、天満宮の梅見に出かける予定となっている。職員は「今後は、クラシックの流れる喫茶店でコーヒーを飲む等、もっと開放感を味わってもらえるような外出支援に取り組みたい」と話していた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理が可能な方については少額程度であればご本人に所持して頂きジュース等を気軽に購入されている。ご自身での管理が困難方や、多額になれば、預かり金の形で施設金庫にて保管し、日用品や食品等の購入に使用して頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば、随時電話をかけたり手紙等が出せるようにしている。また、ご家族からの郵送物に関してもご本人に確認して頂き、お礼の電話をかけられるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 定期的に掃除を行い清潔保持に努めている。共用フロアや居室内についても天候や気温に応じて換気したりエアコンを使用し温度調節を行っている。また、フロアや壁には観葉植物や花、絵画等を設置し、落ち着いて過ごせるような空間作りに努めている。</p> <p>(外部評価) 事業所の前には瀬戸内の海が広がり、見晴らしがよい。施設の玄関には、早咲きの桜等を生け、水仙の花が飾られているユニットもあった。全館床暖房となっている。ドアには、「トイレ」「おふろ」と大きく表示している。壁には、利用者と職員で作った紙細工の干支の猿や雛人形やぼんぼり等が飾られていた。農園には、季節ごとに野菜を植え、利用者が水遣りや収穫を楽しめるよう支援している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共用部には畳やソファを設置しご自由に使用して頂いている。利用者間での交流も見られ、のんびりとした時間を過ごして頂いている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 家具や電化製品、馴染みの物等、危険性を確認した上で気軽に持ちこんで頂き、ご自由に配置できるようにしている。また、他者の迷惑とならない程度でテレビやラジオ等も鑑賞して頂いている。</p> <p>(外部評価) 調査訪問時、利用者が「窓を開けると潮の香りがして、幸せです」と話してくださった。お気に入りの化粧品でお手入れしたり、新聞や愛読書を読んだり、壁に掛けたカレンダーに毎日斜線を引いて、日にちを確認する方もある。又、自作の砂絵やご家族の写真等を置いている居室もあるが、使い慣れたものや好みのものを設えている居室は少な目であった。ポール等を使用して、ほとんどの居室内に洗濯物を干しており、ご自分で干したり畳んだりする利用者もある。転倒予防のため、畳を置いた上に布団を敷いている居室があった。</p>	<p>それぞれの居室がご本人にとって居心地のよい空間となっているか、時々点検してはどうだろうか。職員のアイデアや利用者やご家族とも相談してしつらえを工夫してほしい。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 共用フロアや居室は全てバリアフリーであり、動線上にも余計な物を置く事のないようにして転倒防止に努めている。また、フロアやトイレ、浴室には手すりを設置し安全に移動できるようにしている。認知症等にて自室やトイレの場所が分かりにくい方については、文字や飾り等にて目印をつけ、安心感が持てるようにしている。</p>	